

所沢市子ども・子育て会議
(平成29年度第1回)

会 議 録

平成29年6月2日

会議の名称	所沢市子ども・子育て会議（平成29年度第1回）
開催日時	平成29年6月2日（金） 午後1時30分から午後3時30分まで
開催場所	市役所高層棟7階 研修室
出席者の氏名	（会議録別表1）のとおり
欠席者の氏名	（会議録別表1）のとおり
説明者の職・氏名	
議題	議事 (1) 教育・保育施設等の利用定員等について (2) 各事業の進捗状況について (3) 子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直しについて (4) その他
会議資料	・資料1：教育・保育施設等の利用定員等について ・資料2：子ども・子育て支援事業計画 事業等管理一覧表 ・資料3：子ども・子育て支援事業計画（平成27～31年度）の中間年の見直し ・参考資料：子ども・子育て支援新制度に関する用語説明
担当部課名	本田こども未来部長 町田こども未来部次長 こども政策課：岸課長、瀧澤主幹、森本主査、肥沼主任、中島主事、西川主事 こども支援課：浅見課長 こども福祉課：市來課長 青少年課：森田課長 保育幼稚園課：小山課長、糟谷主幹 健康づくり支援課：野上課長 （事務局）こども未来部こども政策課 電話 04-2998-9415

(会議録別表1)

所沢市子ども・子育て会議委員会名簿

	氏名	出欠席状況	選出母体等
1	近喰 晴子	出席	学校法人 秋草学園 秋草学園短期大学
2	小松 歩	欠席	学校法人 白梅学園 白梅学園短期大学
3	西川 達男	出席	埼玉県所沢児童相談所
4	横須賀 邦子	欠席	所沢市立小中学校校長会
5	三上 明男	出席	所沢市民生委員・児童委員連合会
6	粕谷 治彦	出席	所沢市PTA連合会
7	小沢 貞泰	出席	所沢市放課後児童対策協議会
8	藤澤 拓也	欠席	所沢市私立幼稚園協会
9	喜多濃 定人	出席	埼玉県保育協議会
10	藺田 公斗	出席	地域型保育事業運営団体
11	小松 君恵	出席	地域子育て支援拠点事業運営団体
12	水野 良司	出席	放課後児童健全育成事業運営団体
13	森田 純子	欠席	所沢商工会議所
14	渡辺 良雄	出席	所沢地区労働組合協議会
15	草刈 由美子	欠席	連合埼玉西部第四地域協議会
16	高橋 航太郎	出席	市民公募
17	西村 克男	出席	市民公募
18	池田 亜希子	出席	市民公募
19	笹川 美千代	欠席	市民公募

発 言 者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
会長	<p>～ 開 会 ～</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 会議成立の報告 ■ 委員・事務局職員紹介 ■ 会長挨拶 <p>会議開催に先立ちまして、これまで副会長をお願いしていました児童相談所の広瀬委員が代わられましたことから、新たな副会長を選任する必要がございます。所沢市子ども・子育て会議条例第5条第1項により「委員の互選により定める」となっております。</p> <p>互選ということですが、推薦または立候補はございますか。</p>
委員	<p>私からは、副会長として西川委員を推薦いたします。</p> <p>前副会長の広瀬委員も所沢児童相談所の代表としていらっしゃっていただきましたので、異動されたということであれば、引き続き児童相談所の代表である西川委員にお引き受けいただけたらと思います。</p>
会長	<p>只今、推薦がありましたが、他にございませんか。</p> <p>（異議なし）</p>
会長	<p>それでは、副会長を西川委員さんをお願いしたいと思います。</p> <p>よろしく願いたします。</p> <p>議事に入る前に、資料の確認と本日の会議の流れを事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>お手元にお配りしております資料の確認をお願いいたします。</p> <p>（資料の確認）</p> <p>事前の配付資料としまして、</p> <p>会議次第</p> <p>資料1：教育・保育施設等の利用定員等について</p> <p>資料2：子ども・子育て支援事業計画 事業等管理一覧表</p> <p>資料3：子ども・子育て支援事業計画（平成27～31年度）の中間年の見直し</p>

	<p>参考資料：子ども・子育て支援新制度に関する用語説明 委員名簿</p> <p>があります。なお、追加資料といたしまして、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度ところっこ子育てガイド <p>があります。</p> <p>また、資料1、資料2、参考資料につきましては差替え版を配付させていただきます。計画書の数値等に誤りがございましたので修正しておりますので、本日の会議では、お配りした差替え版をご利用ください。</p> <p>皆様、お手元におそろいでしょうか。</p> <p>次に、本日の会議の流れでございますが、はじめに、議題1として「教育・保育施設等の利用定員等について」、議題2として「各事業の進捗状況について」、議題3として「子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直しについて」ご説明を事務局から行い、それぞれの議題について皆様からご意見をいただきたいと思っております。</p> <p>なお、この会議は、午後3時30分までを予定しておりますので、よろしく願いいたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 傍聴確認 ■ 傍聴者入場（2名） <p>本日の流れについては、先程の事務局からの説明のとおりです。</p> <p>それでは議題1の「教育・保育施設等の利用定員等について」事務局より説明をお願いします。</p> <p>～事務局より資料1に基づき説明～</p> <p>ただ今事務局から説明がありましたが、ご質問、ご意見等ございましたらお願いします。</p> <p>資料1の4ページの待機児童数についてですが、埼玉県に報告している数値の中で、待機児童数から除き、隠れ待機児童にあたるといわれている数を教えてください。</p> <p>また、今年度保育園入園を希望した人の中で、不承諾通知を受け取</p>
会長	
会長	
委員	

事務局	<p>った人数はどのくらいですか。今年の4月時点での数を教えてください。</p> <p>まず、埼玉県に報告した数値からご報告いたします。求職活動中のうち、求職活動を休止している方の人数が12人、保護者の私的な理由で待機している方が202人、育児休業中の方が0人となっております。</p> <p>次に不承諾通知の数ですが、第1次の選考の段階で不承諾通知を受け取った方が、546人となっております。しかし、この数値の中には、すでに在園されていて、別の園に転園を希望された方など、すでに在園されている方の人数も含まれております。</p>
委員	<p>以前、0歳児の保育量をお尋ねした際に、大きい数値と小さい数値を示されて、どちらをとるか、という議論がありました。私は、現状からすると大きい数値をとったほうがよいと発言しましたが、事務局は、小さい数値で提案されました。しかし、今回0歳児の待機児童がいるということは、小さい数値ではなく、大きい数値をとったほうがよかったのではないかと思います。</p> <p>また、昨年の夏の会議で事務局は、この計画上では平成29年度も保育量は足りているから大丈夫だと言っていましたが、結局待機児童が発生してしまっています。この現状をどのように分析されているかお尋ねします。</p>
事務局	<p>子ども・子育て支援事業計画を策定し、その計画に沿って対応をしているところであります。計画上では平成28年度には市内全域の3号認定数も充足し、待機児童についても解消するものとなりましたが、結果としては平成28年4月の時点で待機児童が11人残っているものでございます。これに対して、市も何もしないということではなく、幼稚園の認定こども園への移行で枠の確保について進めさせていただいております。これについては、平成30年からになりますが、1園移行の予定でございます。</p> <p>今申し上げましたとおり、計画上は3号認定の数が充足する見込みでしたが、結果として充足しなかったという状況に対して、速やかに対応しているところでございます。また平成29年4月の状況に対し</p>

事務局	<p>ても、対応していくものでございます。</p> <p>この件に関して保育担当から補足をさせていただきます。実際の入園申込みの数というのは、そのときの例えば、0歳児の子どもを持つ保護者の人数や、就労ニーズによって増減があるものでございます。例えば、平成28年度4月の0歳児の申し込みの数は450件、平成29年度4月の0歳児の申し込みの数は483件と増加しておりますが、保育担当の経験としては、年度ごとに多少の振幅があると実感しているところでございます。</p>
委員	<p>待機児童が増えたという問題に対して、やはり保育士がいなかったために、子どもを預かる人数を制限しなければならないという現状が所沢市にもあると様々な保育園の事業者の方と話をしていると感じています。</p> <p>また、東京都に隣接しているところではどこも保育士不足が言われており、なかなか募集をしても人が集まらず、私のところも、新卒の保育士の方は1人も来ませんでした。ですから、どうにかして東京都に保育士が流れないように対策をとっていただかないと今後さらに苦しくなると感じています。</p>
事務局	<p>ご指摘をいただいた点につきまして所沢市の取組をご紹介します。</p> <p>まず、保育士不足について、現在、所沢市では離職を減らすため、保育士の常勤職員の方に対して、1人あたり月額23,500円の市単独の補助金を支給させていただいております。</p> <p>また採用の一助になればということで、保育園と有資格で働く意欲のある方のマッチングを目的とした合同説明会を開催しております。</p> <p>加えて、他市では先進的な取組を実施しているところもございますので、その取組の研究のため、視察等を実施できるよう、担当課で準備を進めているところでございます。</p>
委員	<p>私は認定こども園を運営させていただいております。先程、待機児童の原因の1つとして保育士不足の話がありましたが、私の園では、今年育児休業明けの職員が2名おまして、その職員の子どもが確実に</p>

事務局	<p>に保育園に入ることができ、職場に復帰できるかがはっきりわからないとその職員の数を見越した園児の受入れ、園の経営ができないという現状を感じています。そういった状況がある中で、難しいとは思いますが、育児休業明けの職員が完全に復帰できることが分かれば、例えば私の園では、0歳児であれば6人、1歳児であれば12人預かれるので、もう少し待機児童を減らすことができたのではないかと感じています。</p> <p>育児休業明けの職員のお子様保育園に入園できるかどうか、受入れ人数に影響してくるといご指摘に関しまして、現在、所沢市の保育園の入園にあたっての利用調整指数表では、保育士の方が新たに働く場合には、2点の加点をさせていただいております。しかし、育児休業から復帰する場合につきましては、加点の対象にはなっていないという現状ですので、ご指摘いただいた点を考慮し、全体のバランスの中で検討を進めてまいりたいと考えております。</p>
委員	<p>先程平成30年度に幼稚園から認定こども園への移行が1件あるというお話がありましたが、もう少し先を見越した、数年先の計画をお聞きしたいです。また、この認定こども園の移行によって、1号・2号認定の枠の数が年度ごとにどのくらい増えていくのか、というところが見えてくると0・1・2歳の待機児童の数が0に近づくのではないかと考えております。先程の保育士の状況によっては受入れ枠が少し増えるかもしれないといったお話などもある中で、こうした状況も踏まえ、待機児童を解消するといった方向でより具体的な幼稚園から認定こども園への移行の状況をお聞きしたいです。</p>
事務局	<p>議題3「子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直し」のところに係る部分ではございますけれども、まず手段としては先程申し上げました、幼稚園から幼保連携型認定こども園への移行により2号・3号の枠については増えるものでございます。</p> <p>また、いきなり幼稚園から認定こども園に移行すると言いましても、幼稚園側からすると、今まで保育したことがない0歳・1歳・2歳児を受け入れることとなりますので、なかなかハードルが高い部分がございます。そこで、幼稚園で一時的に小規模保育事業を実施して</p>

	<p>いただき、そこから将来的に認定こども園に移行するといった段階的な方策も考えられます。また、企業主導型保育事業では、受入枠の半分は地域枠を設定することができます。</p> <p>また、既存の保育所につきましても、待機児童が低年齢児に集中しているという状況がありますので、可能な園に限られますが、定員の割振りを変更し、4・5歳児の枠に余裕があるところはそちらを低年齢児の枠に移行するといったことも考えられるところでもあります。さらに、定員の弾力化につきましても、これも可能な園に限られますが、実施することにより、低年齢児の枠を増やすことができるのではないかと考えております。今後、開発等により保育の需要が急激に高まることのある地区においては、保育園等の新設も考えていきます。</p> <p>このような様々な方策を駆使し、待機児童対策を行っていくと共に、計画の中間年の見直しについては、国からの通知に沿った見直しを進めてまいります。</p> <p>委員</p> <p>待機児童対策をどのように行っていくのがよくわかりました。その中で企業主導型保育事業に関して質問があります。内閣府に届いている申請のうちどれくらい所沢市が把握できているのかをお聞きしたいです。また、それが0・1・2歳の待機児童対策にも役に立つと考えております。</p> <p>事務局</p> <p>現在、所沢市では企業主導型保育による枠の拡大の予定はございませんが、方策の1つとして企業にアピールしているところでございます。</p> <p>委員</p> <p>私の地域では最近、新制度に移行していない幼稚園でプレスクールというものを実施しており、1・2歳児の受入れを行っています。所沢市ではその人数を把握しているのかお聞きしたいです。私の園では地域子育て支援センターをやっておりますが、プレスクールに行くからという理由で、人が来なくなってしまっています。</p> <p>このような、1・2歳児を受け入れる取組を実施している幼稚園を把握し、認定こども園への移行を進めていくのも1つの方策だと考えております。</p>
--	---

事務局	<p>幼稚園の在園児数については報告をいただいておりますが、プレスクールのようなものの利用人数については把握しておりませんので、今ご意見をいただいたことを踏まえ、把握に努めてまいりたいと思います。</p>
委員	<p>先程事務局からお話しいただいた、育児休業明けの職員の子どもが入園できるかどうか分かるのが、入園の利用調整のタイミングと同じです。これより前に受入れ人数を決定しなければならない保育園や認定こども園としては、このタイミングで職員の復帰ができるかどうか分からないと、育児休業明けの職員の数を含めた受入れ人数等を出すことができない現状があります。ですから、難しいとは思いますが、もう少し早い段階で、復帰を確定できれば、4月の段階での数値に反映できたのではないかと考えております。</p> <p>また、先程お話があった、常勤の保育士に対する補助金についてですが、支給していただいている点に関しては、大変ありがたいものと感謝をしております。しかし、これは平成27年度の公定価格になる前からの支給であり、他の市町村、特に東京都では、平成27年度からさらに、上乘せを実施しておりますので、所沢市は非常に厳しい現状になっております。</p> <p>東京都と埼玉県では規模の違いがあり、難しい部分があるとは思いますが、これらのことももう少し考慮していただきたいと考えております。</p>
事務局	<p>育児休業明けの職員が、保育園や認定こども園が募集人数を決定する段階で復帰できることが確定していれば、各園で受入れ人数を増やすことができるというご指摘につきましては、委員さんのおっしゃる通りだと感じておりますけれども、所沢市としましても、一定の公平性というところを考えなければなりませんので、利用調整指数表を作り、優先度を決め、利用調整を行っております。ご意見について、こちらでも理解をしているところではございますが、今の段階では難しい部分があると感じております。</p> <p>また、東京都が保育士の方の待遇を手厚くしていることに関しましては、市としましても、承知しているところでございます。しかし、厳しい財政状況を考えるとなかなか難しい現状がございます。</p>

<p>委員</p>	<p>先程他の委員さんからもお話がありました待機児童のお話につきまして、やはり計画だけを見ていくと、ずれが生じ、待機児童が発生してしまうのも理解できる場所ではあります。それらも踏まえ、保育士の確保という点に関して、例えば事業者から事前に育児休業明けの職員を含めた受入れ人数を所沢市に報告し、受入枠を確保できないかと考えております。</p> <p>先程からお話を伺っていると、順番という部分が大きいと感じておりますので、まず育児休業明けの職員の子どもの入園を確定できないものかと考えるところでもあります。</p> <p>また、この計画は幼稚園については在園児数を利用定員とするということで、数値を出してきたと思うのですが、仮に保育士が確保されて、幼稚園が認定こども園に移行した場合、どれくらい2・3号の枠を確保できるかという試算を出してみるのが1つ重要な指標になると感じております。これが、幼稚園に対してプレッシャーになってはいけないと思いますが、先程委員さんのお話にもありましたように、プレスクールによって、保育園や地域子育て支援センターが振り回されるという現状はあまり好ましくないと感じております。そこで、幼稚園に空き教室があり、保育士等も確保できるのであれば、小規模保育事業を始めるなど、工夫の余地があるのではないかと感じました。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。この件につきましては、本日の議題3と重なる部分がございますので、ここで議題1を終了し、次の議題に移らせていただきます。</p> <p>それでは、議題2「各事業の進捗状況について」事務局から説明をお願いします。</p> <p>～事務局より資料2に基づき説明～</p>
<p>会長</p>	<p>ただ今事務局から説明がありましたが、ご質問、ご意見等ございましたら、お願いいたします。</p>
<p>委員</p>	<p>No. 8「幼稚園型一時預かり事業」について、「労働等をしている方」との記述がありますが、それはどういう方なのかお聞きしたいで</p>

	<p>す。</p> <p>また、保育所型の一時預かりは在園児以外を対象としていますが、幼稚園型の一時預かりはどのような方が対象なのかをお聞きしたいです。</p>
事務局	<p>幼稚園型の一時預かり事業は主に在園児を対象にしたものでございまして、教育時間を超えて、預かりを希望される方に対して幼稚園にて延長してお子様を預かるという事業でございます。</p>
委員	<p>「労働等をしている方でも、同事業を利用することにより、幼稚園も選択肢の一つとなるということが理解されていなかった」という文章の意味をお聞きしたいです。</p>
事務局	<p>保育園に入園するためには、一定の労働時間数が必要ですが、その基準に満たないような方の中には幼稚園の教育時間だけでは、足りないというケースもございます。幼稚園で一時預かり事業等を利用することにより、保育園以外にも幼稚園が、そうした方の選択肢の一つになることを周知していくという趣旨で記載をしております。</p>
委員	<p>幼稚園が一時預かり事業の実施を宣伝していなかったということでもよろしいでしょうか。</p>
委員	<p>働いてはいますが、保育園に預ける基準には達していないと判断されたものの、幼稚園の教育時間では足りず、延長保育を利用しないと、預けることができないという方に対して市として幼稚園で行っている事業をアピールするという意味でよろしいですか。</p>
事務局	<p>おっしゃる通りでございます。</p>
副会長	<p>No. 6「養育支援訪問事業」について、先程のご説明では、導入については要保護児童対策地域協議会で検討されているということでしたが、この事業を継続しないという判断も要保護児童対策地域協議会で検討されているということでもよろしいですか。</p>

事務局	<p>おっしゃる通り、要保護児童対策地域協議会の個別ケース検討会議の場にて導入や終了の判断を話し合っております。</p>
委員	<p>No. 4「放課後児童健全育成事業」について、平成25年の実績値が、2,121人と把握していたのですが、平成28年の実績値が1,909人と減少しているのはなぜかお聞きしたいです。</p> <p>次にこの事業に対して予算が少ないと感じているのですが、これは児童クラブ全体の予算ではないと理解してよろしいのかお聞きしたいです。</p>
事務局	<p>最初のご質問の実績値についてですが、平成28年度の実績値は実際に1,909人分の量の確保を行ったものでございます。</p> <p>また、この放課後児童健全育成事業は平成27年度に見直しをかけておりまして、平成25年度の実績につきましては、1,831人分の量の確保がございまして、平成28年度の実績値の1,909人との差が実績となっております。</p> <p>次に予算につきましては、資料に記載しているものは全体の予算ではなく、平成28年度におきまして、受入れ枠を拡大するために計上した金額であります。具体的には、泉児童クラブを小学校内に移転する関係で、設計委託量を計上いたしました。その金額が219万6千円となっております。</p>
委員	<p>実績値につきましては、実際の申請者数だと勘違いをしておりました。今、ご説明いただきました、泉児童クラブの移転とみどり児童館の改修につきまして、これにより、どれくらい定員が増えるのかをお聞きしたいです。</p>
事務局	<p>泉児童クラブにつきましては、現在の定員数の42人から、約80人への拡大を予定しております。</p> <p>また、みどり児童館の生活クラブの定員拡大につきましては、平成28年度の140人から平成29年度は200人となり、60人の定員拡大を行いました。</p>
会長	<p>他に、ご質問等ございませんか。ないようでしたら、次の議題に移</p>

	<p>ります。それでは、議題3「子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直しについて、事務局から説明をお願いいたします。</p>
	<p>～事務局より説明～</p>
会長	<p>ただ今事務局から説明がありましたが、ご質問等ございましたら、お願いいたします。</p>
委員	<p>教育・保育については、10%以上の乖離があるから、見直しをするということなのですが、地域子ども・子育て支援事業に関しましては、必要に応じという曖昧な表現になっています。しかし、今回この事業を見直すということで、なにを根拠に見直しを行うのか、具体的に教えていただければと思います。</p>
事務局	<p>地域子ども・子育て支援事業の中の放課後児童健全育成事業につきましては、量の見込みと実際の利用者数に乖離がある場合に見直しを行っております。平成28年度につきましては、10%以上の乖離がございますので、今回中間年の見直しを検討させていただいております。</p>
委員	<p>そこについても10%以上の基準があるということによろしいですか。</p>
事務局	<p>放課後児童健全育成事業につきましては、10%以上の乖離というものを1つの基準にしております。</p>
事務局	<p>地域子ども・子育て支援事業の各事業は所管がそれぞれわかれておりまして、各所管に見直しの有無を確認したところ、現時点で見直しを行うのは放課後児童健全育成事業のみとなっております。また、地域子ども・子育て支援事業については、教育・保育のように10%以上の乖離があった場合に見直しをするといった基準がありませんので、各事業の見直しにつきましては、各所管が状況に応じ判断することになります。</p>

委員	<p>居宅訪問型保育事業について今後、どのように考えているのかをお聞きしたいです。</p> <p>また、新制度の13事業ではないのですが、例えば、ひとり親家庭へのサポートとして、子育て応援タクシーなどのニーズも高まってきています。中間年の見直しでは、今までの事業に加えてプラスαの事業の実施についてはどうお考えなのかをお聞きしたいです。</p>
事務局	<p>現時点では待機児童が増えたということもございまして、教育・保育に関しては、枠の確保を中心に考えてまいります。ただ、枠の確保については、地域差も考えなくてはいけないとは感じておりますので、状況に応じ、並行しての検討の必要も考えてまいります。</p>
委員	<p>資料3②の地域子ども・子育て支援事業について、放課後児童健全育成事業の見直しを所沢市放課後児童対策協議会で検討するとありますが、可能であれば、子ども・子育て会議の委員には会議の案内等を伝えていただき、傍聴ができればと思います。</p> <p>続いて、地域子ども・子育て支援事業は、平成27年度の計画の時点ですでに現状と大きく乖離していたのではないかと感じています。そうした点も踏まえ、この超過密状態を所沢市として、どう解決していくのかを、この子ども・子育て会議で見えるようにしていただき、計画を練り上げ、解決に向け、着手していただきたいと感じております。</p> <p>また、資料3①の教育・保育につきましては、平成29年度の4月に所沢市は待機児童を0人にするということを目標に掲げておりました。しかし、それが達成できなかったことに関して、しっかり説明していただきたいと感じております。</p> <p>10%以上の乖離という見直しの基準につきましても、これは厚生労働省からの通知であって、所沢市がどうしていくのかという問題とは若干違うと思いますので、所沢市はどうするのかという点において、待機児童が発生してしまったことも踏まえて議論していただきたいと思います。</p> <p>また、前回の会議でも申し上げましたが、平成31年まで保育園の開所予定や、0歳児以外を見直すということではなく、0歳児の待機児童が発生してしまっているわけですから、もっと現状を踏まえた対策をしていただきたいと考えております。</p>

事務局	<p>平成29年度に待機児童を0人にできなかったことの分析ということでございますが、所沢市は平成22年度の待機児童数が3桁となったことを踏まえ、保育園の新設等の対策を行い、平成28年には11人まで減らしました。それでも所沢市は新設の保育園等が足りないのではないかと考える方もいらっしゃると思いますが、県内の同規模の他市と比べましても、保育園、認定こども園の枠に関しては、多い状況でございます。</p> <p>この計画については、平成25年度のニーズ調査に基づいて策定しております。ニーズ調査の方法や量の見込みと確保の内容につきましても、国の基準に基づき、忠実に調査や算定を行っております。この計画によって、100名定員の施設を2園、平成28年度から新設いたしまして、計画上はこれで受入枠は充足するというものでございました。</p> <p>しかし、計画策定のあと、平成28年6月に「ニッポン一億総活躍プラン」が閣議決定されたことにより、女性の社会進出に拍車がかかるなどの社会状況の変化もあり、計画通りには充足せずに、待機児童が発生してしまったと分析しているところでございます。</p>
会長	<p>ありがとうございます。時間も迫ってまいりましたので次の議題に移らせていただきます。事務局より議題4「その他」について説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>次回の子ども・子育て会議の開催日について、具体的な日にちはまだ決まっておりませんが、8月頃を予定しております。決まり次第、通知させていただきますのでよろしくお願いいたします。</p>
会長	<p>ただ今事務局から説明がありましたが、ご質問等ございましたら、お願いいたします。</p> <p>ないようでしたら、以上で本日の議事はすべて終了いたしましたので、事務局にお返しします。</p>
事務局	<p>閉会にあたりまして副会長よりご挨拶をいただきたいと思います。</p>

事務局	<p>■ 副会長挨拶</p> <p>以上で、平成29年度第1回子ども・子育て会議を閉会いたします。</p> <p>～閉 会～</p>
-----	--